

京都スタジアム（仮称）の整備に向けて〈素案〉



京 都 府

本素案は、「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」球技場部会における委員意見を踏まえて取りまとめたものです。

1 京都スタジアム（仮称）の概要

(1) 建設予定地

亀岡市 約12.8ha
※用地は、亀岡市の都市公園内（予定）

(2) 施設概要

施設用途：専用球技場

入場可能数：25,000人程度

スタジアムの配置：長軸を南北、メインスタンドを西側

ピッチ：125m×85m程度



天然芝フィールド

＜参考＞スタジアムのイメージ



(C) JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

(フクダ電子アリーナ)



(C) JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

(ユアテックスタジアム仙台)



(亀岡市作成イメージ)

2 京都スタジアム（仮称）の基本コンセプト

(1) 青少年の夢とあこがれの架け橋を目指して

○府民に親しまれるスタジアム

- ・「する」、「見る」、「支える」の三拍子揃ったスタジアム
- ・府民（青少年）が大きな夢と感動を得られるスタジアム
- ・ラグビー、サッカー、アメフトなどの決勝戦等が行われるスタジアム

○国際的、全国的な試合を身近に観戦できる感動スタジアム

- ・京都府初の本格的球技専用スタジアム（収容人員：25,000人）
- ・国際試合、J1の試合に対応
 - ※Jリーグ（サッカー）、トップリーグ（ラグビー）の基準に対応
- ・選手との一体感が生まれ、トップレベルの選手も競技しやすい
- ・サンガのホームスタジアムとする

(2) まちづくりの架け橋を目指して

○府中北部振興のゲートウェイ

- ・京都府中北部への人の流れを造る新たなゲートウェイ

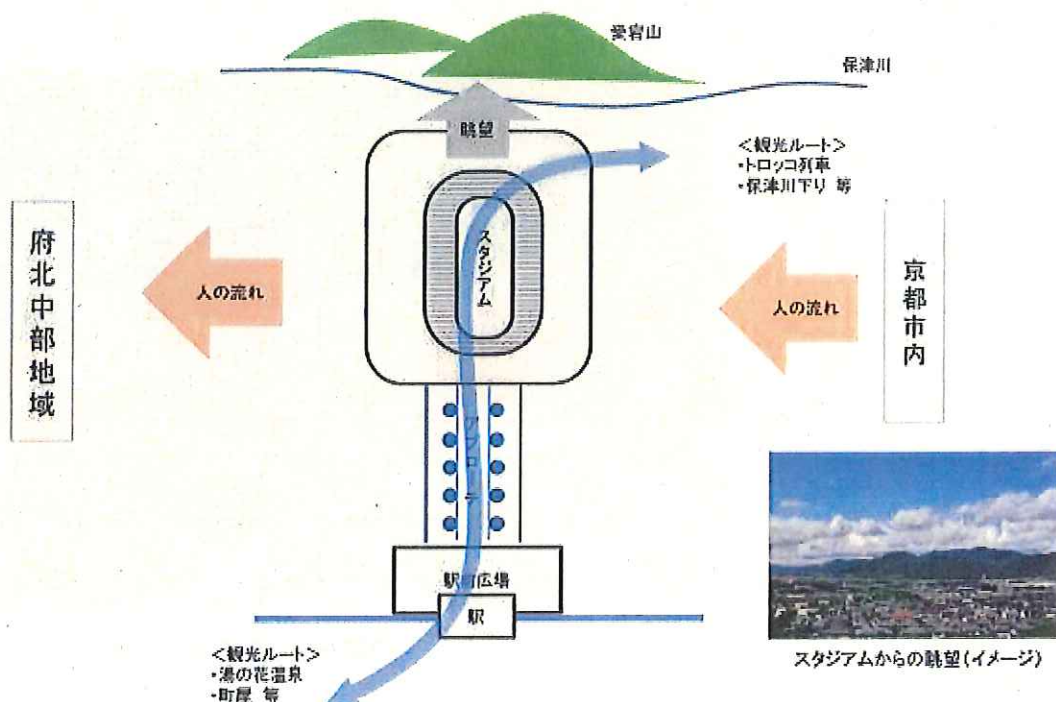
○新しいランドマークの創設

- ・亀岡盆地の田園風景や山並みと調和したシンボリックなスタジアム

○地域振興に貢献

- ・亀岡市の都市開発（区画整理事業）と連携
- ・集客機能＋交流機能を備えた新たな観光スポットとして、保津川下りやトロッコ列車等の観光資源との連携による新たな観光ルートの創出

地域との架け橋のイメージ



(3) 人との架け橋を目指して

○祭り（試合・イベント）のときに誰もが盛り上がる場

- ・ 府民やファンが一体となり感動を生むスタジアム

○日常も人が集い楽しむ場

- ・ 試合がなくても、何か楽しみがある、多様な交流を生み出すスタジアム

○地域コミュニティが結びつく場

- ・ 地域の皆さんが活用できるスタジアム

(4) 自然との架け橋を目指して

○自然を生かしたスタジアム

- ・ 田園の中にある都市公園と一体となった豊かな自然に恵まれた施設

○自然環境と共生するスタジアム

- ・ サンクチュアリ（共生ゾーン）などを設け、アユモドキなどの生息生育環境を保全

○環境に優しいエコスタジアム

- ・ 先進的な省エネ、創エネ技術の導入

(5) 安全との架け橋を目指して

○災害に強い安心・安全スタジアム

- ・ 耐震性等に優れた防災備蓄倉庫や大型自家発電等を備えた防災拠点

3 京都スタジアム（仮称）整備の考え方

【コンセプト1】

『人が集い、一体となり、感動を生む、スタジアム』

①ダイナミックな観戦環境

○フィールドが近く臨場感あふれるスタンド

- ・最前列をフィールドと同じレベル（ゼロタッチ）にし、スタンドの傾斜や配置を工夫して、選手の声や息づかいなどテレビでは味わえない臨場感や躍動感を創出。

○応援の盛り上がりが選手に伝わる観戦環境の創出

- ・応援しやすいサポーター席の設置、球技場のどのエリアからも聞きやすい音響設備を設け、観客席とフィールドとの一体感を創出。



フィールドに近いスタンド



ゼロタッチのスタンド

②ハイレベルな観戦環境

○快適な観戦環境の創出

- ・ゆったり感がある観客席。テラスシート、ボックスシートなど様々な観戦スタイルを提供する観客席
- ・コンコースからフィールドが望めるゾーンを配置するなど、プレーの決定的瞬間を見逃さない観戦空間の創出。
- ・観客席を屋根で覆うことにより、快適な観戦環境を確保。



ゆとりのあるシート



観戦ボックス



観客席を覆う屋根



コンコースから見渡せるフィールド

○観戦の楽しみを倍増する映像環境

- ・選手紹介やハイライト映像など、大型映像装置をフル活用した観戦空間の演出
- ・コンコースでのテレビ映像の放送などハイレベルなメディア環境の整備。



大型映像装置による演出



観客席以外でも試合が観られるテレビ

【コンセプト2】

『人の交流が生まれるスタジアム』

①地域のシンボルとなる施設

- ・田園風景や山並みと調和したシンボリックな施設として整備するとともに、展望スペースや眺望カフェ（レストラン）など観光スポットとしての機能も整備。

②開かれた空間、交流拠点

- ・スポーツジムやクライミングウォールなどのコミュニティスペースを設け、日常的に人々が集える機能を併設。
- ・芝生広場

③選手とサポーターとのふれあいの場

- ・サポーターが選手を身近に感じることができ、応援を送ることができる場外スペースを配置
- ・選手への応援や声援のための横断幕やフラッグが掲出できる空間を整備。

④日常利用の促進

- ・ホスピタリティスペース（貴賓室）や諸室を、会議室（市民講座等）やレストランなど交流スペースとして利活用
- ・野外コンサートや結婚式などフィールドの開放
- ・スタンド・コンコースを地域イベント（フリーマーケット、朝市、屋台村、お祭りステージ）に活用



展望スペース



サポーター応援スペース



コンコースでのフリーマーケット(イメージ)



ゲート



スポーツジム



クライミングウォール



フィールド野外コンサート



スタジアムでの結婚式

【コンセプト3】

『人に優しいスタジアム』

① 老若男女が楽しめる施設

- 子どもからお年寄りまでが安全、快適に、多様な観戦スタイルに対応できる次世代型のおもてなし空間を提供。



ファミリーボックス



広いコンコース

- 日常利用もできる安心な託児所



②人に優しく使いやすい施設

- ・ 障害者や高齢者、女性、小さな子ども連れの方など、誰もが観戦しやすいユニバーサルデザインに配慮した観客席やコンコース、トイレなどを整備。



車いす席



多目的トイレ

【コンセプト4】

『環境に優しいエコロジースタジアム』

①環境技術を集めたエコのシンボル施設

- ・ BEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）の導入
- ・ 再生可能エネルギーである太陽光発電の設置
- ・ スタジアム内トイレの洗浄水として雨水を再利用
- ・ 照明や映像装置などにLEDを積極的に採用し、省エネルギー、省資源技術の設備を整備
- ・ シートなどにリサイクル素材の採用

②天然芝の育成に考慮したスタジアム

- ・ 光の透過性が高い屋根材の使用や雨水を利用した散水装置の設置、通風を考慮したスタンド構造の構築など、設計から維持管理まで天然芝の育成を徹底的に考慮した施設の整備



光を通す太陽光発電屋根（味の素スタジアム）



ガラス建材型太陽光発電



雨水を利用した芝散水



LED照明を使ったコンコース・売店

【コンセプト5】

『自然と共生するスタジアム』

- ① アユモドキの生育環境の保全
 - ・スタジアム建設と自然保護の両立
 - ・共生ゾーンの設定によるアユモドキ保護の本格的対応
 - ・生態への影響が出ない工事

- ② アユモドキ保護の拠点・発信
 - ・スタジアムをアユモドキ保護・発信の拠点とする



アユモドキ



保全活動

【コンセプト6】

『万々のときに頼りなるスタジアム』

- 災害に強く、耐震性に優れた、安心安全のスタジアム
- 災害時には、防災施設としての活用ができるよう避難場所、備蓄倉庫、耐震性貯水槽など防災機能を導入



防災備蓄倉庫



公園の耐震性貯水槽



自家発電装置 (イメージ)



蓄電池設備 (イメージ)

【コンセプト7】

『府民参加によるマイスタジアム』

府のシンボル施設として、府民の積極的な参画を促し、将来に渡って愛着の持たれる球技場を目指す。

- ① 計画、設計、建設、利用の各段階に応じた効果的なソフト施策を実施し、府民の参加意識を高める。
- ② 府民がスタジアムづくりに参加していることが実感できる仕組みづくり。
(例：個人ネーム入りレンガ・手形プレートの募集、設置など)



個人ネーム入りレンガの設置例（甲子園球場）



個人の手形の設置例（豊田スタジアム）

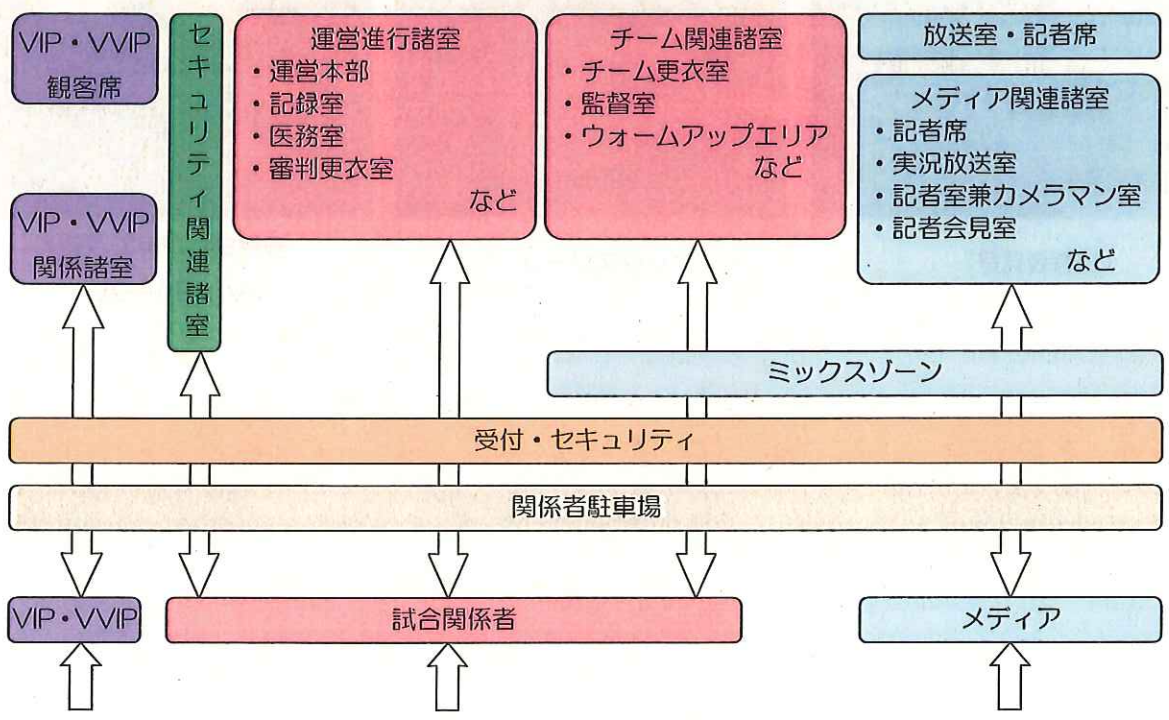
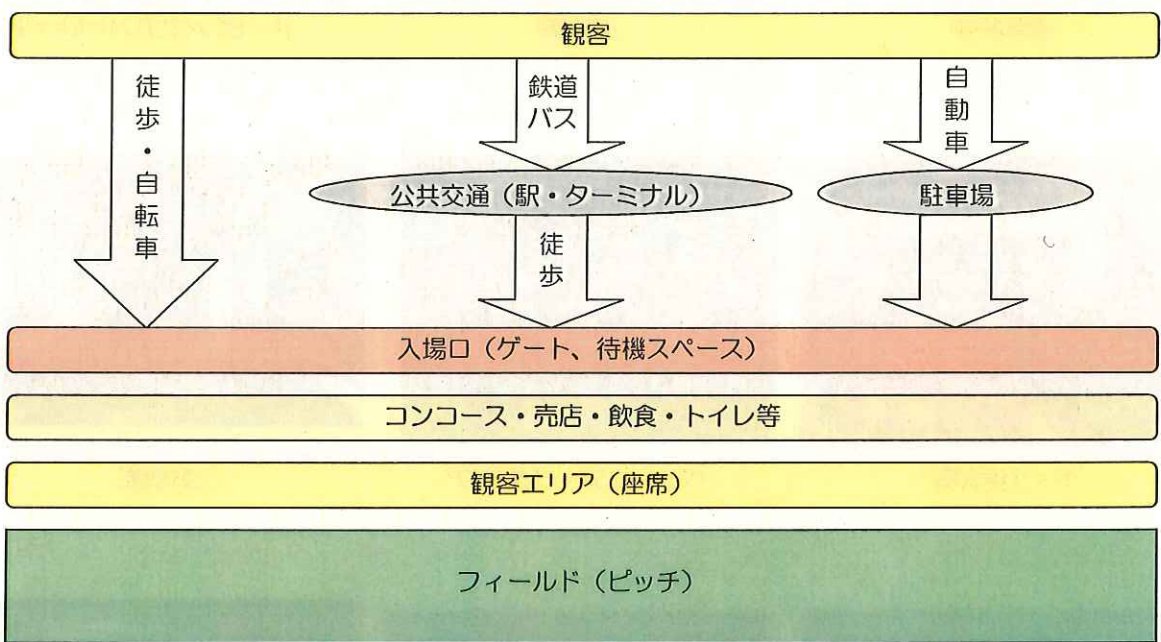


建設途中の工事見学会

4 施設の基本機能

Jリーグやトップリーク、Xリーグ、なでしこリーグなどのプロの試合を開催するスタジアムとして、日本サッカー協会のスタジアム標準やJリーグ規約、Jリーグクラブライセンス交付規則、ジャパンプラグビートップリーグ規約等を踏まえ、施設計画を行う。

また、快適な観戦環境の提供と円滑な運営のため、観客・選手・メディア・関係者の動線に配慮する。



球技場の諸機能の関係性



運営本部



医務室



ドーピングコントロール室



チーム更衣室



ウォームアップエリア



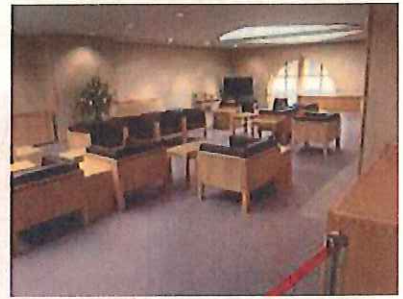
放送室



記者会見室



ミックスゾーン



多目的に利用できる
VIPルーム

5 事業手法

- 事業手法については、公設公営、公設民営、民設民営等の手法があるが、施設の計画、設計・建設、維持管理・運営に至る各段階において、可能な限り官民連携手法（PPP）等を検討していくことが必要である。

	資金	設計・建設	運営	事業概要
公設公営	行政	行政	行政	従来の公共サービス
公設民営	行政	行政	民間	指定管理者制度、管理運営委託
	行政	民間	民間	DBO
民設民営	民間	民間	民間	PFI

} PPP

※一般的な傾向をしめしたものであり、事業ごとに諸条件は異なる。

PPP（官民連携手法）

これまでの行政主体による公共サービスを誰が最も有効的で効率的なサービスの担い手になり得るのかという観点から、行政と多様な構成主体（市民、自治会、各種団体、NPO、企業、大学など）との連携により提供していく考え方であり、民間委託、指定管理者制度、DBO、PFI、民営化などの事業手法の総称。

DBO（Design Build Operation）

公共が資金調達、施設の所有権を有したまま、民間事業者が設計、建設、維持管理及び運営業務を一体的に委ねる。

PFI（Private Finance Initiative）

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（PFI法）に基づき、実施される。

- 民設民営手法による事業化を行う場合、一般的には民営導入可能性調査をはじめ、事業実施の方針や募集要項の作成など民間事業者選定の業務に長時間を要する。

建設予定地（亀岡市）では、土地利用の諸条件を調整し、その結果を踏まえて、設計・建設段階においても行政が一定関与していくことが想定されることから、現時点においては公設民営の手法が適していると考えられる。

- 運営の他事例

<指定管理者方式>

ユアテックスタジアム仙台、フクダ電子アリーナ、ベストアメニティ鳥栖

レベルファイブスタジアム、キンチョウスタジアム、アウトソーシングスタジアム日本平

<直営>

ニッパツ三ツ沢球技場

<DBO方式>

ノエピアスタジアム神戸

6 概算建設費及び運営収支

(1) 概算建設費

約100億円（基礎工費及び造成工費を除く）

※フクダ電子アリーナの建設費を参考に算定
 $81 \text{ 億円} / \text{フクダ電子アリーナ収容人員 (19,781 人)} \times \text{入場可能数 (25,000 人)}$
 $\approx \text{約100億円}$

(2) 運営収支

本素案で計画している施設と同規模のスタジアムにおける運営経費は、下表のとおり、約1～1.6億円となっている。そのうち、設置者である地方公共団体の支出する指定管理料がスタジアム収入の約75%程度を占めている。

一方、指定管理料を支出している自治体は、その財源に、スタジアムのネーミングライツ料や広告料収入を充てており、実質の負担額は、所属するJリーグのクラスによって異なるが、平成22年度の運営状況をみると、約0.2～0.7億円となっている。

■他施設の運営・収支等

(単位：百万円)

施設名	運営主体 (指定管理者)	スタジアムの収支				設置者(自治体)の収支				
		収入	うち 指定 管理料	うち 使用料 等収入	支出	収支	ネーミングライツ (A)	広告料 等 (B)	指定 管理料 (C)	実質 負担額 (A+B-C)
ベストアメニティ スタジアム (鳥栖スタジアム)	(財)鳥栖市地域振 興財団	99	75	24	89	0	J2 年額 30 (J1 年額 50)	約25	75	J2 : Δ20 (J1 : 0)
フクダ電子アリーナ (千葉市蘇我球場)	シミズオクト・東 洋メンテナンス共 同事業体	161	121	40	161	0	J2 年額 30 (J1 年額 50)	約20	121	J2 : Δ71 (J1 : Δ51)

※符号は円を省略

7 スケジュール（予定）

平成 25 年度より設計を開始し、平成 28 年度の完成を目指す。

年 度	内 容
平成 25 年度	・基本設計 ・実施設計
平成 26 年度	
平成 27 年度	・着工
平成 28 年度	・竣工